

心疾患および脳卒中に関する統計アップデート 2026 年版ファクトシート要約

この文書には、心臓病、脳卒中、その他の心血管疾患と、その危険因子についての重要な統計がまとめられています。また、アメリカ心臓協会（AHA）の研究プログラムに関する、よく引用される統計も含まれています。この「要約」文書は、アメリカ心臓協会が毎年作成している「心臓病および脳卒中に関する統計アップデート 2026 年版：米国および世界のデータ報告書」に基づいています。ここで使われている年ごとのデータは、各項目について、統計アップデートが作成された時点で最新のものです。

2024 年、2025 年、2026 年の統計アップデートには、すべて 2021 年の世界疾病負荷研究（Global Burden of Disease）のデータが含まれています。なお、以下に示す世界の推定値の一部（2025 年版と 2026 年版の統計アップデートに基づくもの）は、人口の推定方法や統計および地理情報モデルの改善、さらに 2024 年版以降に約 3,000 件の新しいデータが追加されたことにより、2024 年版の統計アップデートとはわずかに異なる数値になっています。

アメリカ心臓協会の研究

- アメリカ心臓協会は、寄付金を使って研究プロジェクトを支援しています。研究の申請は、わたしたちの協会にボランティアとして参加している科学者や医療従事者のチームによって、ていねいに検討され、選出されます。
- わたしたちが全額支援した研究や、一部を支援した研究により、10 人の研究者がノーベル賞を受賞しました。
- 心臓協会は、アメリカで心臓や脳の病気の研究を支援している、最大の非営利・非政府組織です。
- 1949 年以降、心臓協会が研究支援のために提供した資金は、61 億ドル以上にのぼります。

心臓病、脳卒中、その他の心血管疾患

- 2023 年に、米国で心血管疾患（心臓や血管の病気、CVD）が死因として記録されている死亡者数は、915,973 人でした。米国での心血管疾患を死因とする年齢調整死亡率（年齢構成の違いを考慮して調整した死亡率）は、10 万人当たり 218.3 人でした。
- 2023 年、米国における心臓病と脳卒中による死亡者数は、すべてのがんと慢性下気道疾患（長く続く、肺や気管支の病気）を合わせた数より多くなりました。
- 2021 年から 2023 年の期間には、米国の成人のうち 1 億 3,060 万人（48.9 %）が何らかの心血管疾患を持っていました。
- 2021 年から 2022 年にかけて、アメリカにおける心血管疾患の直接コストと間接コストの合計は 4,147 億ドルでした（直接コスト 2,232 億ドル、間接コスト・死亡による損失 1,915 億ドル）。
- 2021 年から 2023 年の期間に、米国では黒人女性の 59.5 %、黒人男性の 63.0 %が、何らかの心血管疾患を持っていました。この人種グループは、心血管疾患の有病率が最も高いグループでした。

特に記載のない限り、本書に記載されているすべての統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。

統計アップデート 2026 年版 – 統計の要約

- 2023 年に米国で心血管疾患により亡くなった人のうち、死因として最も多かったのは冠動脈性心疾患（CHD）で 38.2 %でした。次いで、脳卒中（17.8%）、その他の心血管疾患（17.1 %）、高血圧性疾患（14.5 %）、心不全（9.8 %）、動脈疾患（2.7 %）でした。
- 2021 年から 2022 年の心血管疾患の直接コストは、米国全体の医療費の 10 %を占めていました。
- 2021 年には、世界で約 1,941 万人が心血管疾患で亡くなりました。これは、2010 年と比較して 18.51 %の増加です。世界での心血管疾患による年齢調整死亡率は、2021 年には 10 万人当たり 235.18 人で、2010 年から 14.55 %減少しました。

冠動脈性心疾患

- 2023 年には、冠動脈性心疾患（心臓の血管の病気）を原因とする米国の死亡者数は 349,470 人でした。冠動脈性心疾患を死因とする米国の年齢調整死亡率は、10 万人当たり 82.2 人でした。
- 2013 年から 2023 年にかけて、米国では、冠動脈性心疾患による死亡率が 19.9 %低下しましたが、死亡数は 5.6 %の低下にとどまりました。
- 2023 年、心筋梗塞（心臓の血管がつまって起こる病気、MI）が死因となった米国での死亡者数は 93,345 人でした。心筋梗塞を死因とする米国の年齢調整死亡率は、10 万人当たり 21.9 人でした。
- 米国では、約 40 秒に 1 人の割合で心筋梗塞が起きています。
- 2005 年から 2014 年のデータによると、米国では、年間に約 60 万 5,000 件の新規の心臓発作と、20 万件の再発があると推定されています。初めて心筋梗塞になったときの年齢を平均すると、男性は 65.6 歳、女性は 72.0 歳でした。
- 2021 年から 2022 年の期間における冠動脈性心疾患の直接コストと間接コスト（1 年にかかった費用の平均）は、1,249 億ドルと推定されています。
- 2021 年には、世界で約 899 万人が虚血性心筋梗塞で亡くなりました。これは、2010 年と比較して 21.03 %の増加です。世界での年齢調整死亡率は、2021 年には 10 万人当たり 108.73 人で、2010 年から 13.02 %減少しました。

脳卒中

- 2023 年に米国で亡くなった人のうち、約 19 人に 1 人の死因が脳卒中（脳の血管に急なトラブルが起こる病気）でした。
- 米国では、2023 年には平均して 3 分 14 秒に 1 人が、脳卒中で亡くなっています。
- 2023 年には、脳卒中を原因とする米国の死亡者数は 162,639 人でした。米国での脳卒中を死因とする年齢調整死亡率は、10 万人当たり 39.0 人でした。
- 米国での脳卒中を死因とする年齢調整死亡率は、2023 年には 10 万人当たり 39.0 人で、2013 年の 10 万人当たり 36.2 人から 7.7 %増加しました。同じ期間に、脳卒中で亡くなった人の実数は、（2013 年の 128,978 人から）26.1 %増加しました。
- 2021 年には、世界で 725 万人が脳卒中により亡くなりました。これは、2010 年と比較すると 14.30 %の増加です。虚血性脳卒中（脳の血管がつまるタイプ）による死亡者数は 359 万人、脳内出血（脳の中で出血が起こるタイプ）による死亡者数は 331 万人、くも膜下出血（脳の表面近くで出血が起こるタイプ）による死亡者数は 35 万人でした。世界での脳卒中全体による年齢調整死亡率は 10 万人当たり 87.45 人で、2010 年から 17.45 %減少しました。世界での年齢調整死亡率は、虚血性脳卒中は 10 万人当たり 44.18 人、脳内出血は 10 万人当たり 39.09 人、くも膜下出血は 10 万人当たり 4.18 人でした。

特に記載のない限り、本書に記載されているすべての統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。

突然の心停止（SCA）

- 2023 年には、突然の心停止（心臓が急に止まり血液を全身に送れなくなる病気）を原因とする米国の死者数は 18,132 人でした。突然の心停止を死因とする米国での年齢調整死亡率は、10 万人当たり 4.3 人でした。2023 年、米国で死亡診断書に「突然の心停止が」と記載された死者は、380,349 人でした。突然の心停止の記載のある年齢調整死亡率は、10 万人当たり 90.2 人でした。
- 2024 年の米国のデータによると、成人の院外心停止（病院の外で起こる心停止、OHCA）の多くは、自宅や住居（71.0 %）で起きています。成人の院外心停止は、公共の場所（18.0 %）や介護施設（11.1 %）でも発生しています。
- 2024 年の成人の院外心停止のデータでは、救急隊が対応した、外傷のない院外心停止において、治療後に退院することができた人の割合は 10.5 % でした。心停止の発生時に目撃者がいた場合は、治療後に退院できた人は 15.9 %、救急隊員が立ち会った場合は 18.0 % でした。

心不全（HF）

- 2021 年から 2023 年のデータによると、米国の成人では 770 万人（2.5 %）が心不全（心臓が体に必要な量の血液を送り出せなくなる状態）でした。
- 2023 年には、心不全を原因とする米国の死者数は 89,795 人でした。2023 年、米国での心不全を死因とする年齢調整死亡率は、10 万人当たり 21.6 人でした。
- 2021 年には、世界全体で 5,550 万人が心不全により亡くなったと推定されています。これは、2010 年と比較すると 33.28 % の増加です。米国での心不全による年齢調整死亡率は、10 万人当たり 676.68 人で、2010 年から大きな変化はありませんでした。

心血管疾患の危険因子

心臓協会は、心臓病や脳卒中のリスクを高める 8 つの大切な健康要因と行動を追跡することで、国全体の心血管の健康を評価しています。これらは「生活に欠かせない 8 つのこと」と呼ばれ、すべてのアメリカ人の心血管の健康を改善する取り組みのために使われています。生活に欠かせない 8 つのことタバコをやめる、もっと体を動かす、よりよい食事をとる、体重を管理する、健康的な睡眠をとる、コレステロールを管理する、血圧を管理する、血糖を管理する。以下に、これらの要因に関する主な事実を示します。

たばこやニコチンの使用とばく露（たばこを吸ったり、煙や蒸気を吸ったりすること）

- 2021 年には、世界で推定 725 万人がたばこにより死亡しています。これは、2010 年と比較すると 9.28 % の増加です。世界での年齢調整死亡率は 10 万人当たり 85.66 人で、2010 年から 19.75 % 減少しました。
- 2021 年、米国において、喫煙は早死損失年数（早く亡くなってしまうことで失われる年数）の原因としては 2 番目、障害共存年数（障害による影響を受けながら生きる年数）の原因としては 4 番目でした。
- 受動喫煙（他人のたばこの煙を吸うこと）と心血管のリスクについて、23 件の前向き研究と 17 件の症例対照研究をまとめた分析では、受動喫煙にさらされた人で、死亡全体では 18 %、心血管疾患全体では 23 %、冠動脈性心疾患では 23 %、脳卒中では 29 %、それぞれ相対的リスクが高いことが示されました。

統計アップデート 2026 年版 – 統計の要約

- 2020 年の米国公衆衛生局長官報告によると、毎年 480,000 人超の米国人が喫煙により亡くなり、41,000 人超が受動喫煙で亡くなっています。これは年間の死亡者数の約 5 人に 1 人にあたります。
- 2024 年には、米国の高校生の 10.1 %、中学生の 5.4 %が、現在たばこ製品を使用していると答えました。高校生の 1.7 %、中学生の 1.1 %が、過去 30 日間にたばこを吸ったと回答しました。過去 30 日間に電子たばこを使用したのは、高校生の 7.8 %、中学生の 3.5 %でした。
- 2021 年には、米国の成人の 11.5 %が、毎日またはとききたばこを使用していると答えました（男性 13.1 %、女性 10.1 %）。
- 2021 年には、世界で 725 万人がたばこにより亡くなりました。これは、2010 年と比較すると 9.28% の増加です。世界でのたばこによる年齢調整死亡率は、2021 年には 10 万人当たり 85.66 人で、2010 年から 19.75 %減少しました。

運動

- 2022 年、米国の成人のうち、有酸素運動と筋力を高める運動について、2018 年版「アメリカ人のための運動ガイドライン」を満たしていた人は 25.3 %でした。
- 2022 年と 2023 年のデータによると、米国の 12～17 歳の青少年のうち、毎日 60 分以上運動していた人は 13.7 %でした。この数字は、6～11 歳の子どもの方が高く、25.6%でした。
- 2021 年、世界で 66 万人が運動不足により亡くなりました。これは、2010 年と比較すると 30.74 % の増加です。世界での運動不足による年齢調整死亡率は、2021 年には 10 万人当たり 7.99 人で、2010 年から 7.49 %減少しました。

栄養

- アメリカ心臓協会の「生活に欠かせない 8 つのこと」のスコアと、2013 年から 2020 年の国民健康栄養調査（NHANES）のデータに基づくと、成人の食事はスコアが最も低い項目のひとつでした。平均スコアは 100 点中 41.8 で、人口統計グループごとに 28.2～53.7 のばらつきがありました。
- 2013 年から 2020 年の 2～19 歳の子どもの平均スコアは 100 点中 43.9 で、人口統計グループごとに 32.5 から 50.3 のばらつきがみられました。
- 2021 年、米国では、食習慣に関連するリスク要因が、早死損失年数の原因の上位 20 項目のうち、7 項目を占めていました。
- 2021 年、世界では、食習慣に関連するリスク要因が、早死損失年数の原因の上位 20 項目のうち、3 項目を占めていました。
- 2021 年には、世界で 722 万人が食習慣に関連するリスクにより亡くなりました。これは、2010 年と比較すると 18.78 % の増加です。世界での食習慣に関連するリスクによる年齢調整死亡率は、10 万人当たり 86.26 人で、2010 年から 13.85 %減少しました。

特に記載のない限り、本書に記載されている統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。

過体重および肥満

- 2021 年から 2023 年の米国の成人について、年齢構成の違いを考慮して調整した肥満の有病率（ある時点で病気をもっている人の割合）は、全体で 40.3 %、男性 39.3 %、女性 41.4 %でした。
- 2021 年から 2023 年の米国の成人について、年齢構成の違いを考慮して調整した重度の肥満の有病率は、全体で 9.7 %、男性 6.8 %、女性 12.6 %でした。
- 2021 年から 2023 年において、米国の 2～19 歳の子どもの肥満の有病率は、全体で 21.1 %、男子 23.0 %、女子 19.1 %でした。
- 2021 年には、世界全体で 371 万人が、体格指数（BMI）が高いことが原因で亡くなりました。これは、2010 年と比較すると 42.81 %の増加です。BMI が高いことによる世界での年齢調整死亡率は 10 万人当たり 44.23 人で、2010 年から大きな変化はありませんでした。

高コレステロール血症およびその他の脂質異常（血液の中のコレステロールや脂肪が多い状態）

- 2021 年から 2023 年のデータによると、米国の成人で総コレステロール（血液中のコレステロールの合計）が 200 mg/dL 以上の人、約 9,120 万人（36.1 %）でした。
- 2021 年から 2023 年のデータによると、米国の成人で総コレステロール（血液中のコレステロールの合計）が 240 mg/dL 以上の人、約 2,870 万人（11.3 %）でした。
- 2017 年から 2020 年のデータによると、米国の成人で低比重リポタンパク質コレステロール（LDL コレステロール、いわゆる悪玉コレステロール）が 130 mg/dL 以上の人、約 6,310 万人（25.5 %）でした。2021 年から 2023 年の LDL コレステロールのデータは、2026 年版の統計アップデート作成時点では公表されていませんでした。
- 2021 年から 2023 年のデータによると、米国の成人で高比重リポタンパク質コレステロール（HDL コレステロール、いわゆる善玉コレステロール）が 40 mg/dL 未満の人、約 3,490 万人（14.1 %）でした。
- 2021 年には、世界全体 365 万人が、LDL コレステロールが高いことが原因で亡くなりました。これは、2010 年と比較すると 17.41 %の増加です。世界での年齢調整死亡率は 10 万人当たり 43.67 人で、2010 年から 14.68 %減少しました。

睡眠

- 2017 年から 2020 年の国民健康栄養調査（NHANES）のデータによると、寝つけないなどの睡眠の問題は、高齢者、女性、白人の成人、仕事をしていない人で、より多く見られました。日中の眠気は、若年成人、女性、白人の成人、仕事をしていない人、収入が低い人でより多く見られました。
- 2022 年の米国のデータによると、どの年齢層でも、「よく休めたと感じない日がない、または一部の日のみ」と答えた人は、男性よりも女性のほうが多いという結果でした。

糖尿病

- 2021 年から 2023 年のデータによると、米国の成人の 2,950 万人（10.6 %）が糖尿病（血液の中の糖の量 [血糖値] が高い状態が続く病気）と診断されていると推定されます。
- 2021 年から 2023 年のデータによると、米国の成人の 960 万人（3.5%）が未診断糖尿病（糖尿病の基準を満たすが、まだ医師に診断されていない状態）であると推定されます。さらに、米国の成人の 9,600 万人（37.2%）は、前糖尿病（血糖値が高めだが、まだ糖尿病ではない状態）でした。
- 2023 年には、糖尿病を原因とする米国の死亡者数は 95,190 人でした。糖尿病を原因とする米国の年齢調整死亡率は、10 万人当たり 22.4 人でした。
- 2021 年には、世界全体で 166 万人が糖尿病により亡くなったと推定されています。これは、2010 年と比較すると 41.13 %の増加です。世界での年齢調整死亡率は 10 万人当たり 19.61 人で、2010 年から大きな差はありませんでした。2021 年には、世界全体で 529 万人が高い空腹時血糖（食事をしていないときの血糖値が高い状態）により亡くなったと推定されています。これは、2010 年と比較すると 37.09 %の増加です。世界での年齢調整死亡率は 10 万人当たり 63.73 人で、2010 年から大きな差はありませんでした。

高血圧（HBP）

- 2021 年から 2023 年のデータによると、米国の成人の 1 億 2,590 万人（47.3 %）が高血圧でした。
- 2023 年に高血圧が原因で亡くなった米国の死亡者数は 132,827 人でした。2023 年の米国での高血圧を原因とする年齢調整死亡率は、10 万人当たり 31.9 人でした。
- 2021 年には、世界全体で 1,085 万人が収縮期血圧が高いことにより亡くなったと推定されています。これは、2010 年と比較すると 20.50 %の増加です。収縮期血圧が高いことによる世界での年齢調整死亡率は 10 万人当たり 131.10 人で、2010 年から 13.63 %減少しました。

ファクトシート（事実をまとめた資料）、インフォグラフィック（図やイラストで説明した資料）、および最新／過去の統計アップデート出版物は、次の場所からダウンロードできます。

[心臓病と脳卒中に関する統計 | アメリカ心臓協会](#)（英語のウェブサイト）。

このファクトシートに掲載されている統計の多くは、統計アップデート文書のために編纂された、未公表の集計データによるものです。これらの統計は、以下に示す文献引用表記を使用して、引用することが可能です。集計に使われたデータの出典は、完全版のファクトシートに一覧として掲載されています。また、一部の統計は、すでに公表された研究からのものです。このファクトシートにある統計を引用する場合は、完全版の「心臓病と脳卒中に関する統計」文書を確認し、データの出典と元の引用文献を確認してください。

アメリカ心臓協会は、完全版の文書の引用時に次の記載を含めることを要求します。

Palaniappan LP, Allen NB, Almarzooq ZI, Anderson CAM, Arora P, Avery CL, Baker-Smith CM, Bansal N, Currie ME, Earlie RS, Fan W, Fetterman JL, Barone Gibbs B, Heard DG, Hiremath S, Hong H, Hyacinth HI, Ibeh C, Jiang T, Johansen MC, Kazi DS, Ko D, Kwan TW, Leppert MH, Li Y, Magnani JW, Martin KA, Martin SS, Michos ED, Mussolino ME, Ogungbe O, Parikh NI, Perez MV, Perman SM, Sarraju A, Shah NS, Springer MV, St-Onge M-P, Thacker EL, Tierney S, Urbut SM, Van Spall HGC, Voeks JH, Whelton SP, Wong SS, Zhao J, Khan SS; on behalf of the American Heart Association Council on Epidemiology and Prevention Statistics Committee and Stroke Statistics Committee. 2026 Heart disease and stroke statistics: a report of US and global data from the American Heart Association. *Circulation*. Published online January 21, 2026.

メディアからのお問い合わせは、すべて News Media Relations <http://newsroom.heart.org/newsmedia/contacts>（英語のウェブサイト）にお願いいたします。

特に記載のない限り、本書に記載されている統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。